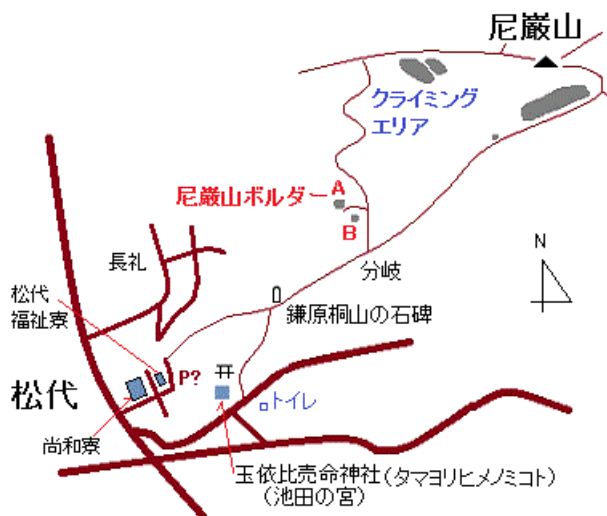


## 長野松代 尼巖山ボルダー

2017.6.1 retK

今年の北信濃は例年にない大雪のため、実家での除雪作業が大変であった。当然クライミングもできずにいたが、2月に入り、除雪作業も降雪も一段落し、何処かボルダーでもと考え思いついたのが、長野松代の尼巖山である。去年は鳶岩近くのボルダーを見つけて遊んだが、今年は尼巖山にもクライミングエリアがあるので、その周辺にボルダーがあるのではないかと思い、南斜面の雪が融けただろうと思われる頃、山登りを兼ねて出かける。

玉依比売命神社(池田の宮)前の道路脇に駐車させてもらい、直ぐ横の登山道から少し登ると害獣よけの柵があるのでゲートを開けて入り登って行くと、長札からの道を合わせたところに鎌原桐山の石碑がある。さらに暫く登ると南尾根コースと北尾根コースの分岐に着く。山頂へは真っすぐ南尾根を登るのが早いですが、今回はボルダー探しの為北尾根を登り、クライミングエリアを経て山頂へ至り、山頂から南尾根を下る一周コースを歩くこととする。



北尾根方面へ登山道をトラヴァースしていくと、早速左下に2個ほどボルダーが見える。詳細な確認は下山時にすることとして、登山道に行く。やがて北尾根に出て、その先でクライミングエリアへの分岐があり、右に入ると直ぐにクライミングエリア下に到着する。簡単に見渡した限りではボルダーとして良さそうなものは無い。岩場の上の段から強引に斜面を登り再度北尾根に出て、暫くと登ると山頂に到着する。北信五岳や白馬岳方面の展望を楽しんだ後、今度は南尾根を下ってみる。頂上直下の岩場下を回り込むように下り南尾根に出ると、小さなボルダーが1つあるが、ここまで来て登るほどのものではない。暫く南北尾根コースの分岐まで下って、最後の期待とばかりに、北尾根コースに入って40mほどのところから左下に見えたボルダーに行ってみる。

最初の岩(B岩)は期待外れであったが、次の岩(A岩)は真にボルダーというイメージの岩で、正面が前傾しており、おまけに下地は平らで非常にトライするには条件が良い。

期待に沿うボルダーは1つだけであったが、アプローチはのんびり歩いて30分程度であり、個人的に楽しむには十分な岩である。この日は簡単なラインだけをトライし、その後再度訪れ課題を追加した。周辺をよく探せば他にもあるのかもしれないが、今冬はこのボルダーのトライだけで終わった。

駐車場については、後日訪れた時に、松代福祉寮近くの長札・天王山登山口にあるとの標識があつて入っていくが、しっかりした駐車場はなく、登山口近くの道路脇に置くようになっているのか良く分からなかった。池田の宮前は前のグランド利用者も駐車していたので大丈夫と思われるが、あまりスペースがない時は、登山者用駐車場を利用した方が良いと思われる。

なお、100岩場では「尼巖山」となっているが、正しくは「尼巖山」のようである。

## ●A岩

左:西面スラブ 中央:南面 チムニー周辺



岩は一部脆いがトライに当たり取り除いたので使うホールドはある程度しっかりしている。発見当初から下地が良く、岩も南面はきれいであった。登られた形跡は見られず、トライされたかどうかは不明。チムニー部分は火を焚いたのか少し岩が黒く、また鎌倉時代以前より山城であったことから、何らかの利用のために整地された可能性もある。

西面スラブは、カンテ(黄色ライン、課題名:勾玉)が少々難しく、カンテ左のホールドを使いながら最後までカンテ沿いに登る。

南面は、クラック沿いのラインが面白い。LS(ロースタート、課題名:玉依比売命)は左手はハングのアンダー、右はリップ付近のホールドでスタート。

チムニー周辺では、チムニー左の壁の課題(黄色ライン、課題名:狼煙を上げろ)がちょっとバランスが悪く楽しめる。落ちた時に反対側の壁にあたらないよう注意が必要。左のSDの赤ライン(課題名:落城)は穴をつないで左上に抜ける。

## ●B岩

左:西面スラブ 右:南面スラブ

西面スラブは、易いスラブと限定気味のSD課題。

南面スラブは、カンテラインとスラブ下のハングに何本かのSD課題がある。黄緑と青のラインは逆層で登りにくい。

この岩は適当に限定して遊ぶことで、軽いウォームアップにはなる。

